

Improvement Of Teaching Methods(4)

話術

校長

教員が話すことによって授業は開始され、展開し、終了します。話し方は授業の出来を大きく左右します。教員は授業の話術を身につけなくてはなりません。また、教員の話術が生徒の言語活動に影響を与えるので、正しく適切な言葉で話すことが大切です。

話術のポイント

1. 生徒に分かるように話す。
2. 明瞭に発音する。
3. 教室の一番後ろの生徒に聞こえるような音量で話す。
4. 区切れのない(句点)話し方や、早口の話し方をしない。少し遅いくらいが丁度よいスピードといわれます。人が理解するには時間を要します。
5. 間の取り方に注意する。間を上手くとってください。ジャパネットタカタの高田前社長は商品価格を言う前に、間を取ってからいっていました。
6. 重要な事項や留意点などに抑揚をつけて話す。特に、重要な事を伝えるには、声のトーンを低くするとよいといわれています。テレビのアナウンサーがニュース原稿を読むとき、声のトーンを落としています。
7. 個々の生徒や状況など、臨機応変に対応する。

生徒の発言を受けて

1. 繰り返し 生徒の発言の核心等を繰り返し、全体に広める。
2. 言い換え 生徒の発言を他の言葉に言換える。
3. 補足 生徒の学習の不十分な点を補足する。
4. あいづち 生徒の発言に同意する。
5. 評価 生徒の学習意欲を喚起する。
6. 発問 内容を進化させる問いを返す。

注意点

1. 不確かな言葉を言わない。「一かな」「たぶん、一だ」「えーと」などが口癖の人は意識して直しましょう。間をとってしゃべりましょう。
2. 語尾伸ばしをしない。「そうなのですかねー」「えーと何というのかなあー」など、あまり印象はよくありません。
3. 「ちょっと」はプラス的な面が少ないので避けましょう。